何したらそうなるのかなあ

急に下の方がザワザワしている様に感じる。
案の定、おばあちゃんが下から呼んだ。
「何か、お土産くれよるんかなあ。」
と下へ降りる。

母ちゃんは喜んでいる。
サザエなど貝類である。
母ちゃんは焼いて食べようとしていたが、
僕は一つ手に取り、目鼻に近づけ、
「何じゃ、こんなん、僕、よう食べんわ。」と言いつつ、
「何か、もっといいもん、くれるんかと思ったのに。」
と言って、部屋に戻り、やりかけていた
英語会話のテープを続ける。

一時間程して、テープコーダの熱風がだいぶ熱くなった。
テープコーダ自体も熱くなってきた。

「もっと小さく、静かで、熱が出んもんにならんかなあ。」
と思いつつ、やめて下へ降りる。

めし迄マンガを読みながら、買ってきたおやつをぱくつく。

マンガの中の未来では
テープコーダが腕時計ぐらいになっている。

僕の生きてる間にそうなるやろか。
何したらそうなるのかなあ。

六時すぎ夕食で、その後、すぐ寝る。

萩原良昭